

## 平成 22 年度日本植物病理学会関西支部会のお知らせ

平成 22 年度関西支部会開催地委員長 加藤久晴

平成 22 年度日本植物病理学会関西支部会を下記のとおり開催致しますので、万障お繰り合わせの上、奮ってご参加下さいませようご案内申し上げます。

### I. 日程と会場（時刻は予定です）

- ・日時：平成 22 年 9 月 30 日（木） 13：00～14：00 総会  
14：30～17：45 一般講演（口頭・ポスター）  
18：30～20：30 懇親会
- 平成 22 年 10 月 1 日（金） 9：00～12：00 一般講演（口頭・ポスター）

- ・会場：AOSSA 〒910-0858 福井県福井市手寄 1 丁目 4 番 1 号 (<http://www.aossa.jp/>)
- ・懇親会場：ホテルフジタ福井 〒910-0005 福井県福井市大手 3 丁目 12 番 20 号 (<http://www.hotel-fujita.jp/fukui/>)

### II. 参加申込

- ・締切：平成 22 年 8 月 13 日（金）
- ・費用：参加費 2500 円（締め切り日以降は 3500 円）、講演要旨集 1 部 2500 円、懇親会費 5000 円（学生 2000 円）
- ・要領：同封の郵便振替払込取扱票（口座番号：00750-3-53259、加入者名：平成 22 年度日本植物病理学会関西支部会）に必要事項を記入し、締切日までにご送金ください。払込用紙の通信欄のコピーを、領収書・講演要旨集などの宛先ラベルとして使いますので、送り先・氏名などは正確に記入して下さい。郵便振替払込取扱票による送金をもって部会参加の申し込みとします。整理の都合上、払込用紙は参加者 1 名ごとに 1 枚をお使いください。払込用紙をさらに必要とされる場合は、郵便局に備え付けの用紙をご利用ください。参加を申し込まれた方には、9 月中旬に講演要旨集ならびに名札をお送りします。この名札は領収書を兼ねますので、部会参加期間中は必ず携行してください。

### III. 発表申込

- ・締切：平成 22 年 8 月 13 日（金）17：00
- ・要領：発表ができるのは日本植物病理学会会員（平成 22 年度会費納入者）で、1 人 1 題のみとします。発表希望者は、末尾「講演要旨原稿作成要領」に従って講演要旨原稿を MS WORD ファイルで作成し、E-mail 添付ファイルとして関西支部会プログラム担当用アドレス（[takahiro\\_watanabe@fklab.fukui.fukui.jp](mailto:takahiro_watanabe@fklab.fukui.fukui.jp)）宛にご送付下さい。E-mail の題名（件名）は、「要旨」＋「：」＋「発表者氏名」として下さい。また、添付ファイル名は「発表者氏名.doc」として下さい。原稿が正しく受け付けられた場合には、受け取りのメールを送付者宛に返送します。受け取りのメールは 1～3 日で送付しますが、届かない場合は正しく受け付けられていない可能性がありますので再送付して下さい。講演要旨原稿送付をもって発表の申し込みと致します。なお、講演要旨は座長等による審査の後に「日本植物病理学会報」に掲載されます。

#### IV. 発表の形式と要領

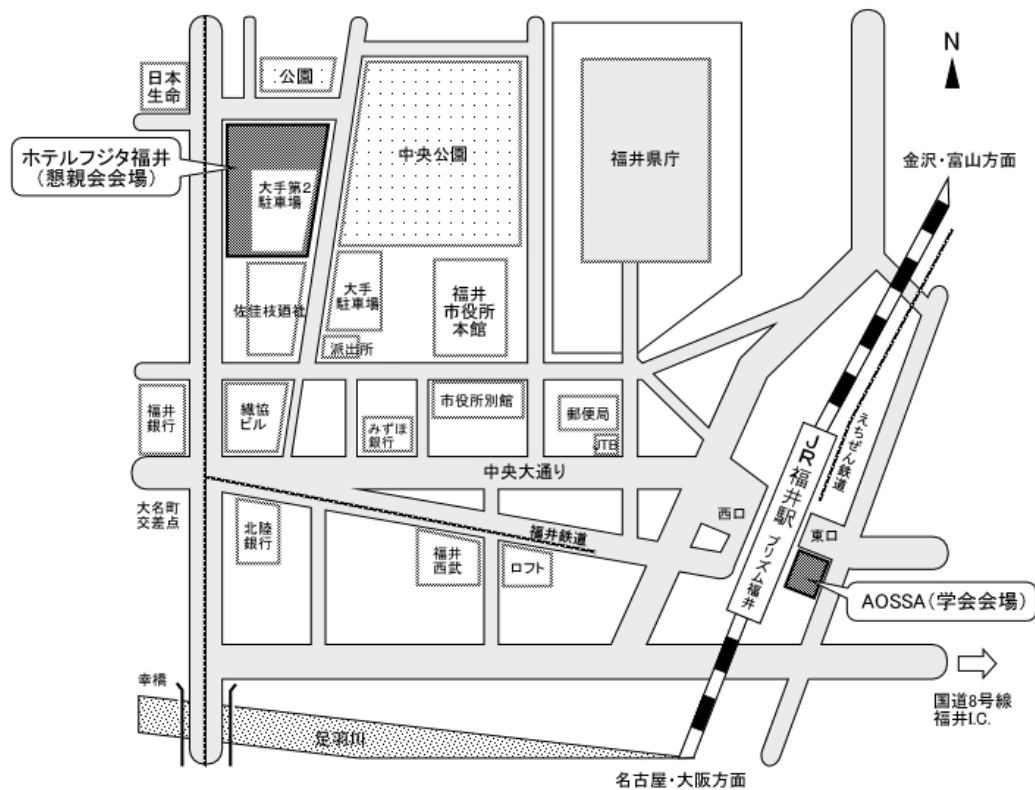
- ・発表形式の選択と決定：発表は口頭とポスターの両形式で行います。講演要旨申し込みの際に、ご希望の発表形式を記載してください（末尾「講演要旨原稿作成要領」参照）。その際に「どちらでもよい」を選択された方には、8月27日（金）までにどちらの形式でお願いするかをご連絡いたします。なお、「口頭を希望」「ポスターを希望」を選択された場合でも、プログラムの編成上ご希望に添えず、どちらかに変更していただく場合がありますので、あらかじめご了承ください。変更をお願いする場合は、8月27日（金）までにご連絡いたします。この日までに事務局から連絡のない場合は、ご希望の発表形式に確定したものとご考慮下さい。
- ・口頭発表要領：口頭発表は討論時間を含めて12分程度を予定していますが、演題数によって変更することがあります。発表用ファイルは「Power Point 2007 あるいはそれ以前のバージョン」で作成し、CD-Rに保存してください。その際、ファイル名はすべて半角で「講演番号-発表者姓」として下さい（例「153-Kato」）。さらに、そのCD-R表面に講演番号と発表者氏名を油性マジックで記入の上、受付に提出して下さい。パソコンの操作は会場係が行います。また、重いファイルはパソコンの動作に不具合をきたすことがありますので、できるだけ軽いファイルにしてください。
- ・ポスター発表要領：指定された時間に自分のポスターの前に立ち、質疑に応じて下さい。ポスターは縦120cm×横90cm以内で作成して下さい。画紙などの展示用具は会場にて準備いたします。

#### V. 宿泊と交通

関西部会開催地事務局では特別に宿泊・交通の幹旋は致しませんので、各自で手配をお願いします。

<最寄り駅から会場までの交通>

JR 福井駅東口から：徒歩1分、北陸自動車道：福井ICから車で15分



## VI. 連絡先

平成 22 年度関西西部会の参加申し込み、お問い合わせなどは、関西西部会開催地事務局（加藤久晴）へお願い致します。講演発表の申し込みはプログラム担当（渡辺貴弘）までお願い致します。

- ・平成 22 年度日本植物病理学会関西西部会開催地事務局

〒910-1195 福井県吉田郡永平寺町 4-1-1 福井県立大学生物資源学部

TEL : 0776-61-6000 (内線 3518、加藤久晴)、FAX : 0776-61-6015

E-mail : vtec@fpu.ac.jp

- ・関西西部会プログラム担当

〒918-8215 福井県福井市寮町 52-21 福井県農業試験場 病理昆虫研究グループ

TEL : 0776-54-5100 (内線 290、渡辺貴弘)、FAX : 0776-54-5106

E-mail : takahiro\_watanabe@fklab.fukui.fukui.jp

## 講演要旨原稿作成要領

<全体の大きさ> 和文講演者氏名から所属略称までが、縦 73mm、横 161mm の枠におさまるようにする。1 つのファイルに収める講演要旨原稿は 1 つとすること。

<ページ設定>

ー用紙サイズ：A4 用紙、縦方向。

ー余白：上 15mm、下 30mm、左 25mm、右 25mm。

ー文字数と行数：「文字数と行数を指定する」を選択し、文字数 50、字送り 9pt、行数 51、行送り 14pt にする。

<配置> 両端揃え（所属略称のみ右端揃え）

<フォント>

ーフォントサイズ：すべて 9pt。

ー日本語用フォント：平成明朝または MS 明朝（但し和文題目のみ平成角ゴシックまたは MS 角ゴシック）

ー英数字用フォント：Times New Roman。すべて半角。

ー句読点：「,」「,」

ーイタリック指定：題目、本文中とも、学名などイタリックにする必要があるものはすべてイタリックで表記。

<和文講演者氏名> (1 行) 講演者が複数の場合は中点「・」で区切り、発表者名の前に丸印「○」をつける。所属が異なる場合には、「\*」「\*\*」で区別する。

<和文題目> (2 行以内) フォントは平成角ゴシックまたは MS ゴシックとする。

<英文講演者名と英文題目> (2 行以内) 氏名は、family name, first name initial, middle name initial の順に書き、initial の間にはスペースを空けない。講演者名と英文題目の間は、コロン「:」で区切る。

<本文> 9 行以内で記載する。

<所属略称> (1 行) 括弧「()」に入れ、右端揃えとする。複数の場合は中点「・」で区切り、和文講演者氏名に対応させて「\*」「\*\*」をつける。

講演要旨原稿の下に、以下の情報を記入する。

- (1) 発表形式 (「口頭を希望」「ポスターを希望」「どちらでもよい」の中から1つ選ぶ)
- (2) 発表希望分野 (「糸状菌病」「細菌病」「ウイルス病」「その他」の中から1つ選ぶ)
- (3) 発表内容 (「分類・同定・診断」「発生生態」「感染生理」「防除」「その他」の中から1つ選ぶ)
- (4) 対象植物 (和名または学名で示す)
- (5) 対象微生物 (和名または学名で示す)
- (6) 原稿送付者の氏名
- (7) 原稿送付者の E-mail address
- (8) 発表者の学会会員番号 (会員番号は封筒の宛名シールに記載されています。平成 22 年度会費未納の方は、至急会費をお支払いください。)

### 講演要旨原稿の例

(実際の大きさです。点線枠は要旨集に掲載される範囲を示すもので、印字の必要はありません。)

○渡辺貴弘・澤田宏之\*

#### リアルタイム定量 PCR 法によるダイズ葉焼病菌のダイズからの検出・定量の試み

Watanabe, T. and Sawada, H.: Challenges to Developing Real-Time PCR Method to Detect and Quantify *Xanthomonas axonopodis* pv. *glycines* from Soy beans

ダイズからダイズ葉焼病菌 (*Xanthomonas axonopodis* pv. *Glycines*) を検出・定量するため、TaqMan プローブ法によるリアルタイム定量 PCR (QPCR) の実験系を構築することを試みた。プライマーおよびプローブは *rpoD* の配列をもとに設計し、その有効性を調べるために、福井県内で分離したダイズ葉焼病菌 60 菌株および対照として本菌以外の *Xanthomonas* 属細菌 9 株を用いて QPCR 反応を行った。その結果、本菌からのみ増幅が認められ、しかも、段階希釈した本菌の菌液を鋳型としたところ高い定量性が得られた。次に、ダイズ種子中の本菌を対象にして定量性が確保できるかどうかについて検討するために、菌液の希釈系列をダイズ種子に添加後、DNeasy Plant Mini Kit によって DNA を抽出して QPCR 反応を行った。その結果、 $6 \times 10^2 \sim 6 \times 10^8$  cfu/g の範囲で高い定量性が得られたことから、この実験系は本菌の検出・定量に利用可能であると考えられる。

(福井農試・\*生物研)

口頭を希望

細菌病

分類・同定・診断

ダイズ

ダイズ葉焼病菌

渡辺貴弘

xxxxx@xxx.xxx-u.ac.jp

123456